

## 第23回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会議事録（要旨）

1 開催日時：平成29年9月29日（金） 14時00分～14時30分

2 開催場所：熊本市役所 12階会議室

### 3 市民公益活動支援基金運営委員

- ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（熊本大学教育学部教授）  
佐藤 和弘 副委員長（株式会社 地域総研 代表取締役）  
越地 真一郎 委員（地域づくりアドバイザー）  
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場  
連絡会 理事長）  
紫垣 正刀 委員（市民局市民生活部長）  
藤川 潤子 委員（市民局市民生活部広聴課長）
- ・欠席者： 松枝 清美 委員（公募市民）

### 4 配布資料

資料1 助成申請スケジュールについて

資料2 寄附に関する取り組み

### 5 会議録（要旨）

#### 【議事事項】

助成申請スケジュールについて

（資料1に基づき、事務局より説明）

（古賀委員長）

昨年と大体同じスケジュールだが、いまの説明に対して何かご質問、あるいはご意見等あるか。

（越地委員）

昨年提案されたスケジュールと同じものを提案するというので、実際に運営してみて、大きな不都合がなかったという前提かと思うが、その中でも、多少工夫が必要だった、あるいは予定が少し詰まっていたといった振り返りがあれば、参考までに教えてもらいたい。

（事務局）

特にない。

（越地委員）

全く問題なく、スムーズに流れたという前提での提案ということか。

(事務局)

そのとおり。

(古賀委員長)

いまの話に関して、昨年の申請団体数はいくつだったか。

(事務局)

プレゼンテーション対象のステップアップが15団体、その他のスタートアップが4団体だった。

(古賀委員長)

日程的には、それだけの団体数でも十分対応できたということかと思う。他に質問はあるか。

先日、別の助成事業の選定に携わったが、例年20数件ある申請が40件あった。当基金についても、震災関係の事業が1年遅れで申請される可能性がある。どういう結果であれ、たくさん申請があった方がいい訳だが、そのあたりについては、昨年の日程でも大丈夫だということでご了承いただいたということ構わないか。

(委員全員、異論なし)

## 【議事事項】

寄附に関する取り組みについて

(資料2に基づき、事務局より説明)

(中島委員)

特別ランナーからの寄附は、今年度は11件で37万円ということだが、以前のものを見ると、17件で52万円、33件で99万円となっている。1件につきいくらという決まりはあるのか。

(事務局)

1件当たり3万円以上となっているため、それ以上であれば、寄附額を5万円にするなど、自由に設定いただくことができる。そのため、年度によって件数と金額に差が出てくる。

(中島委員)

3万円以上という条件は決められているのか。

(事務局)

そのとおり。

(古賀委員長)

昨年度はチャリティランナーメニューから外れて、熊本城マラソンを通した寄附がなかったが、今回はその分いろいろと事務局に努力していただき、こういった目処がたったということである。

他にご質問、ご意見等あるか。

(越地委員)

特別ランナーの「特別」という意味は、金額が高いという意味か。

(事務局)

特別ランナー、一般ランナーという区別が熊本城マラソンの中にあり、3万円以上のご寄附をエントリー料にプラスして支払っていただける方は、抽選によらず、出走権を確定させて参加することができる。この特別ランナー分の寄附が、まず初めに熊本城マラソン事務局から当基金へ振り込まれる。

その後、一般ランナーから一口500円でエントリー料金にプラスしてご寄附いただくが、抽選結果がわかったあと、エントリー料金とともに寄附をお支払されるため、当基金には、12月頃に入金される流れとなっている。

(越地委員)

この金額は、熊本城マラソンに入ってくる特別ランナー、一般ランナー全体の寄附額なのか。いただいた寄附は全部ここにくるのか。

(事務局)

今年度を例に申し上げると、チャリティランナーのメニューが3つあり、1つ目が「熊本城災害復旧支援金」、2つ目が「スポーツ振興基金」、そして3つ目に当基金がラインナップされている。その中から、当基金を選んでいただいた件数と金額をここに記載している。

(越地委員)

では、当然、全体はもっと金額が膨らんでいるということか。

(事務局)

そのとおり。

(佐藤副委員長)

その他の項目で、3番目に挙げられた助成報告冊子の件だが、その主な内容や配布先、あるいは広報については、どのような案があるか。

(事務局)

まず、制度概要等を最初に記載したうえで、寄附者のご紹介をじっくりさせていただき、次に、実際にその寄附を使ってどんな事業があったのかという具体例を掲載したいと考えている。

現在、当基金の紹介は、あいぽーとで発行している市民活動情報誌「あいず」に事業概要の一覧を載せているだけだが、これに、どのように助成金が役に立ったのかという具体的な視点を加えることで、事業に対する理解を深めていただき、そのことによって当制度に対するご理解につなげ、さらには、寄附の促進にもつながっていくと考えている。

また、冠寄附者様をはじめ、いろいろな寄附者の方がいらっしゃるが、そのご紹介を冒頭にする  
ことで、自分も寄附をしたいと思っていただけるようなきっかけになればと考えている。

(佐藤副委員長)

それでは、不特定多数向けに配布するため、冊子を作るということか。

(事務局)

配布先については、これからさらに検討していくが、まずはそういった冊子を作ってホームペー  
ジ上にわかりやすく掲載するなど、そのようなことを考えている。

(古賀委員長)

これはいつ頃発行の予定なのか。

(事務局)

今年度は新しくステップアップ助成事業がスタートした切り替わりの年度でもあるため、来年度  
の5月に行う報告会以降に発行する方向で検討している。

(越地委員)

「ベンダー」とはどういう意味だったか。

(事務局)

飲料水の提供事業者様のこと。これまでは、コカ・コーラ様とサントリー様にご協力いただいて  
いたが、この度、伊藤園様とも覚書を取り交わすことができた。

(越地委員)

その提供事業者の自動販売機を設置しているところが対象になると。この新規設置者2件とある  
が、台数としては何台か。

(事務局)

熊本シティエフエム1台とスポレク・エイト3台である。

(古賀委員長)

このNPO法人スポレク・エイトは、西区でスポーツ関係のインストラクターのような方が集ま  
って作った団体だったか。

(事務局)

そのとおり。

(古賀委員長)

そういった企業ではない団体から支援いただける可能性もあるということだが、他に意見等ある

か。特に、この寄附金付自動販売機の設置拡大等については、前回委員会で委員の皆様から多数のアイデアをいただいたが、それを受けて、あいぼーとおかれては随分と努力されたようだ。このまま鋭意拡大できるよう、心から願っている。

#### 【今後のスケジュールについて】

(資料1に基づき、事務局より説明)

(古賀委員長)

以上のスケジュールで次年度の助成対象団体の決定ということだが、特に委員の皆様から何もなければ。

(越地委員)

本日の議題以外でもよければ。

この事業のアピールという点で、「くまもと・わくわく基金」という愛称を、今後どうやってアピールしていくのかというのは、寄附促進も含めて大事なことではないかと思う。当然、役所のやる事業であり、正式名称というものはかっちりしたものでなければいけない。それが「熊本市市民公益活動支援基金」だが、それと愛称との兼ね合いが重要で、恐らく大方の人が「くまもと・わくわく基金」という言葉を知らない。

そこで、例えばホームページやいろんなところへ出すときに、この愛称を皆さんに理解してもらえる方法があってもいいのではないか。なかなか正式名称は、堅いし長いし、普段は使われない。そこで、会話の中で「あ、わくわく基金ね」という言葉が自然に出てくるようないいやり方はないものかと。

昨日ホームページを見てみたが、例えばあるホームページを見ると、「熊本市市民公益活動支援基金」という正式名称がメインにきて、その下に「くまもと・わくわく基金」という愛称がくる。また別のホームページでは、「くまもと・わくわく基金」という愛称になっていたり、この辺の兼ね合いが問題になる。

ついでに報道資料を確認したところ、前回は「第22回熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議」という会議名のみで、「くまもと・わくわく基金」という名称は出てこない。別になさっているのかもしれないが、記者クラブのメンバーも、ひょっとすると「くまもと・わくわく基金」のことであると知らず、今日は何かの基金委員会があるらしいといった受け止め方で終わっているのであれば、アピールという点ではもったいないと思う。

愛称と正式名称の兼ね合いは難しいが、何か一工夫あった方がいいのではないか。市民には愛称でしか広がらないので、愛称を前面に打ち出して、その代わり必ず正式名称をそこに添えていくという配慮をしつつ、そういった方法はないものかと思った。

(古賀委員長)

確かに、これと競合するものが「熊本城一口城主」あるいは、電車でいえば「緑のじゅうたん」とわかりやすい言葉であるのに対して、「くまもと・わくわく基金」の「わくわく」という言葉は、生涯学習なんかでも使っていたりするため、いかに、市民活動、NPO 法人の活性化につながって

いるというイメージを持たせるのか、どうしたらいいだろうか。

(越地委員)

いまある愛称をどんどんアピールしていくのと別に、新しい愛称を考えるという選択肢もなくはないだろうが、新規にそれをするとなるとまた考えが大きくなる。とりあえずは、せっかく愛称があるため、この辺をみんなに知ってもらい、そこでどういった内容なのか説明するという2段階でのアピールの仕方はないものかと。

(古賀委員長)

例えば、ホームページでの表記を、「わくわく基金」を先に出して、カッコ書きで正式名称を補足するような書きぶりでも認められるような場合には、まずはその方法をお使いいただくようにされたらいいのかもしれない。きちんとした制度的なものには正式名称を用いなければならないと思うが、チラシなどには愛称を前面に出すことが可能だと思うので、愛称をもっとアピールできような広報のやり方を、事務局での努力いただき、そのスタンスについて検討していただきたい。

(中島委員)

寄附をたくさん募るにあたって、どれだけ知っていただくかということが大事だが、どこかチラシを置く場所や知っていただける場所があるといいなと思っている。ホームページを見る方はそれで十分わかるが、金融機関や郵便局などの窓口でそういったチラシ等を置くことができれば、基金の内容についてお知らせして、そこでつながる方もいらっしゃるのではないと思う。

(事務局)

金融機関については、情報誌の「あいず」を、肥後銀行様、第一信用金庫様は9月号から、熊本銀行様はその前号の3月号から各支店に置かせていただいている。その中に基金の情報を掲載している。

金融機関以外には、病院等にも話しに行っている。なかなか大きい病院からは了承いただけなかったが、いくつかのところに置いていただくことができた。また、患者向けの待合室には難しいが、職員向けには知ってもいい内容だというような病院があったため、内部用に配布をお願いしたこともあった。引き続き、もっといろんな場所で展開していきたいと思う。

(古賀委員長)

確かに、最近ボランティアを設置するような病院が増えてきた。ああいった存在が一つ、受け皿になるのかもしれない。そういった意味でも、このことも一つの努力目標ということでお願いしたい。郵便局もいろいろとチラシ等が置いてあるが、あれもやっぱり基準があるのだろう。

(事務局)

郵便局はまだ話をしていない。

(古賀委員長)

ぜひ一度あたって欲しい。自分はよく東郵便局に行くが、本当にたくさん置いてあるので、その

中に入れてもらうことができるのかどうか。その辺りは恐縮だが、努力いただくようよろしくお願いいたします。

**【閉会】**

(古賀委員長)

これをもって、第23回市民公益活動支援基金運営委員会を閉会とする。

(終 了)